

自信

学習 ～算数の復習～

いよいよ卒業まで残りわずかとなりました。6年生の算数では現在、「小学校6年間の学習内容を総復習する期間」に入っています。この時期は、長期間にわたり新しい単元を学ぶのではなく、復習を中心に行う**6年間で唯一の期間**です。

6年間で学んできた算数の内容は、中学校数学の大切な土台になります。特に、小学校算数は積み上げ型の教科で、一つの理解が次の学びにつながっています。そのため、この時期に「どこが理解できていて、どこに弱さがあるか」を振り返ることで、中学校でのつまずきを防ぐことができます。現在の6年生が特につまずきやすい単元として、以下のような内容があります。

🔗6年生でつまずきやすい算数の一例

① 分数の計算(特に分数のわり算)

分数が出た時点で「どう計算したらいいかわからない」ことが多い。
とくに「分数をひっくり返してかける」理由が曖昧だと混乱します。

② 速さ(時速・分速など)

「何をどこにかけるのか・割るのか」で迷いやすい。
時速→分速などの単位の変換にも苦手さが出やすいです。

③ 割合(○割引、○%増えるなど)

「まず何を計算すればいいのか」がつかみにくい。
30%引きと30%の量の違いが曖昧になることもあります。

④ 図形(円・立体の体積や表面積)

立体のどこが“底”なのかイメージしにくい。
また、側面の展開図が想像しづらく、表面積でつまずきます。

⑤ 文章題

情報が多いと「読む前にあきらめてしまう」ことがあります。
式の立て方が分からず、やみくもに計算しがちです。

こうした単元は中学校数学にも深く関わるため、この時期の復習がとても大切です。

この復習期間は、子どもたちが自分の学びを振り返り、弱点に安心して向き合える貴重な時間です。学校では、気になるところを一緒に確認しながら、自信をもって卒業を迎えられるよう声を掛けています。ご家庭でも、引き続きの見届けをよろしくお願いいたします。